

1.2 こうした問題に改善の兆しが見られないのは、何が原因と考えますか。

| ID | 自由記述内容 | 学会 | 年齢 | 性別 |
|-----|--|-------------|----|----|
| 2 | 期待すること自体ムリ | 日本哲学会 | 63 | 男 |
| 41 | 専門領域に応じて教育課程や制度・定員を見直すべき。たとえば他学部でMBA取得が最終目的なら博士課程の定員は少なくとも理解できる。 | 不明 | 36 | 女 |
| 73 | 非常勤で過剰労働を強いられているため、問題改善に声を上げる余裕がないから | 科学基礎論学会 | 33 | 男 |
| 78 | 問題解決のため、活動する組織委員会が無い、または、活動が弱い。 | 科学基礎論学会 | 76 | 男 |
| 117 | 企業自体もアンテナを広げていない | 科学基礎論学会 | 35 | 男 |
| 118 | 不自然なコネ採用をチェックする制度・機関が必要 | ハイデガー・フォーラム | 36 | 男 |
| 119 | 政策・行政等における人文系学問全般の軽視 | 日本科学哲学会 | 23 | 男 |
| 128 | 社会全体が投資と投機を混同している。研究についても同様。 | 日本科学哲学会 | 36 | 男 |
| 130 | 各研究の分野間の違いが政策において十分考慮されてない | 日本哲学会 | 27 | 女 |
| 133 | 文部科学省の官僚の質 | 倫理学会 | 45 | 男 |
| 140 | 哲学の重要性の社会的認知 | 日本科学哲学会 | 46 | 男 |
| 152 | 改善しようとしたら、クビになるかもしれない。 | 日本哲学会 | 47 | 男 |
| 153 | 日本で人文系の研究者を養成することが重要なことだと認識されていない。特に哲学を専門とすることに対して偏見がある。 | 日本科学哲学会 | 27 | 女 |
| 166 | 経済的余裕がなく、研究を続けたり、資格を得たりするためには、先ず、すべてに優先してお金が必要になってくるため。 | 科学基礎論学会 | 57 | 女 |
| 188 | 文科省の通達とそれを無視できない私学の経営面での問題 | 中世哲学会 | 53 | 男 |
| 189 | 哲学自体への社会的評価、哲学と諸学の連携、90年代よりの文科省の大学院拡充政策 | 中世哲学会 | 43 | 男 |
| 190 | 指導教員の問題意識の希薄さ、無責任、人格の問題 | 中世哲学会 | 33 | 女 |
| 199 | まともな研究を研究者に求めてこなかった日本の哲学界の体質の問題 | 若手 | 25 | 男 |
| 217 | 哲学研究者が哲学を社会に向けて開かないから。 | 日本倫理学会 | 35 | 男 |
| 220 | 博士号取得者に対する企業の認識(人文系を必要としない) | 日本倫理学会 | 40 | 女 |
| 223 | 人文系の学問が社会に必要とされていないこと | 日本倫理学会 | 27 | 女 |